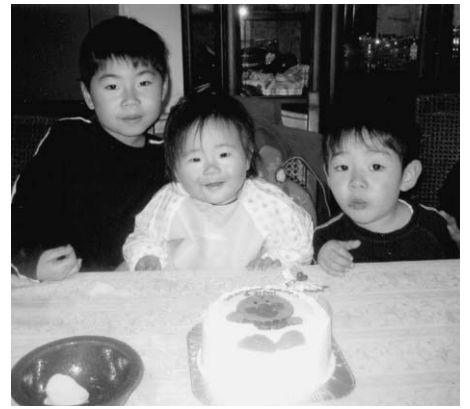




ゆう や
優弥ちゃん(平成17年6月18日生)
両親=高木次雄・俊恵さん(江ヶ崎)
「三男坊のぼくは、いたづらなら
お兄ちゃん達にだってまけないぞ。」

はる が
和遼ちゃん(平成15年3月24日生)
両親=江島臣哉・和美さん(蛇園)
「これぞ七五三。」



ま お
真央ちゃん(平成16年12月25日生)
両親=飯田耕司・珠代さん(□)
「お兄ちゃんたち、
私のケーキ食べないでネ。」

すこやかちゃんを募集しています

掲載ご希望の方は、秘書広報課広報聴班(〒289-2595旭市二の1920・☎62-8070)へ。対象は、小学校入学前の幼児です。
申込用紙は、旭市保健センター、海上保健センター、飯岡保健センター、干潟保健センター、秘書広報課にあります。



紙上展示室——旭モノ語り——第九回

草木撰種録

江戸時代は優れた農学者を輩出した時代です。この地にも農書のベストセラーを生み出した学者がいました。それが、宮負定雄(1797～1858)です。

松澤村(現在の清和乙)の農家に長男として生まれた定雄は、家業に励むかたわら、国学を学ぶ父の影響からか、自らも学問に目覚めました。その経験の中から生まれたのが『農業要集』でした。この書で宮負定雄は土地にあった作物を生産し、商品作物を積極的に導入することを勧めました。国学や神学の視点を持ちながらも、地域に密着した実践的な内容は、彼の才能ならではのものです。

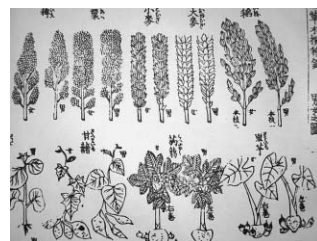
この『草木撰種録』は彼の第二作目に当たります。一枚刷の作物便覧で、稲・大麦・小麦・粟・稗・里芋・蒟蒻・甘藷(さつまいも)・豆類・綿・柿・竹など、三十三種類が男女一つずつ描かれています。当時は、すべての物は男女の区別があり、雌の苗を植えれば生産が上がるという「作物雌雄説」がありました。これを絵で表し、平易な説明を付けたのが本書です。文字の苦手な農村の人々にも分かりやすいとあって、この書は爆発的な人気を博しました。その後、類似の刷り物がいくつも出され

たほどです。

さて、皆さんご存じのとおり、この説は誤りであることが分かっています。当時も数年後には、間違いであると実証されています。しかし、この書の意義は別のところにあります。一つには種子の選別、採取の重要性を広めたこと、そしてもう一つ、それを農村へも浸透させたことです。村の荒廃に直面し、農業の再興を願い、ふだん書物を開くことのない農民たちにも、何とかして伝えようという彼の思いが、この図から伝わってくるようです。宮負定雄の著作は他にも多数ありますが、このベストセラーが彼の代表作でもあり、農学者としての真骨頂だったのではないのでしょうか。

※『日本農書全集3』農文協に二つの著作の全文が掲載されています。

〔大原幽学記念館 猪野映里子〕



▲一枚刷の作物便覧『草木撰種録』

暮らしのカレンダー

- 6 日(木) 春の全国交通安全運動(～15日)
- 7 日(金) 市内小・中学校入学式(後記の学校を除く)
旭農業高校・東総工業高校入学式
- 8 日(土) 袋公園桜まつり 演芸&こどもゲーム大会
共和小・一中入学式
- 10 日(月) 琴田・干潟・豊畑小・干潟中入学式
- 11 日(火) 旭中央病院附属看護専門学校入学式
- 29 日(土) みどりの日

編集後記

東京で桜が開花した3月21日、アメリカでは野球の世界大会「WBC」で、王ジャバンがキューバを破り初代王者に。見ていてうれしくなりました。2次リーグで韓国に敗れたときは、これで終わりかと思ったのが、奇跡の準決勝進出。気持ちの切り替えとまとまりの良さが、優勝につながったと思います。桜が咲き、プロ野球も開幕、そして選抜高校野球も熱戦。今日から新年度、さまざまなことが新しく始まります。心機一転でいこうと思います。

(K)